



mjet

# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 2020年度事業計画と予算を承認！

5月10日開催予定の MJET2020年の年次総会は、「緊急事態宣言」により、自粛せざるを得なくなり、同日開催された理事会において「メールによって、会員の皆さまのご意見をお聞きすること」が決定されました。5月11日、藤村会長が MJET 事務局を通じて会員の皆さまに、4つの議議案に対する賛同、不賛同、コメント等のご意見を5月17日までに回答するよう、お知らせしました。

5月17日までに、正会員26名の内、15人から回答があり、定款に定める構成員の4分の1以上の出席に代わる回答を得たことにより、総会は成立したことが確認されました。2020年度事業計画は、コロナ感染危機がいつ頃に収束するかにかかっていますが、この先行きが全く不確実なため、すべてが夏ごろまでに収束できればということで、計画が作成されました。要点は以下の通りです。

### 1. 役員

- 平湯慎介理事が退任され、新たに金丸守正理事が選出された。

### 2. 国際開発フィールドワーク支援事業

- 学生の卒業論文のテーマを見つけるための調査は、コロナ危機が収束した場合のみ実施することとし、そのための勉強会を3回実施する。

### 3. 植林ツアー

- 例年通り、8月22日～31日の予定で実施するが、コロナ危機の状況が改善しなければ中止する。
- 参加者は11～14名程度とし、300本の植林を捕植の観点から実施する。

### 4. 農村開発事業

- 7村の村人を対象に、Plastic Campaign グループと協力して「ゴミ処理と環境問題」に関するセミナーを8月29日の午前中に開催する
- 農業省のニャンウー事務所と「ニャンウー地域の降雨パターンと適正農作物の生産」といったテーマでワークショップを開催する。

### 5. ミャンマー青少年支援事業

- 坂口基金により、MJYA (Myanmar Japan Youth Association)が主催する日本語学生を対象に、奨学金事業を実施し、2019年度の奨学金250,000円(約2200ドル)を授与する。

### 6. 学生部の活動

- 10月もしくは11月頃にミャンマー人学生2名を日本へ招待し(渡航費・宿泊費などMJETが補助)、交流型のスタディツアーや実施を検討する。

すべての事業はコロナ危機の収束時期いかんにかかっているので、事態の推移を注意深くモニターし、万が一事業が実施できない場合には、代替案を考える。

## Phauk Seik Pin 村の大規模植え替え作業

Nature Lovers からの連絡によると、同村では植林された苗木の生育に問題があったことから、新しい緑化委員会の手によって、今年の前半に大規模な植林地の整備が行われ、枯死していた苗木の植え替えが行われたとのことです。

同村では、粘土質の土壤などから植林された苗木の生育に問題がありました。福永さんの記念の森の南側道路とその向かいのゴミ捨て場になっていた場所は、綺麗に整備されて新しい苗木が植え替えられました。藤村会長が新緑化委員会会長に、本年3月、当初の苗木の植林図面を手渡しておいたのを参考にして捕植をおこなったようです。以下の写真をご参照ください。



植え替えられた苗木



福永記念の森の植え替え



池の土手の植栽捕植



捕植を行った村人



村の入り口手前の捕植



設置された銘板 Board

Nature Lovers の Aung Dinさんは、これまで植林した村々の植林の場所に MJET と Nature Lovers が植林したという名前の入った木の銘板を設置してくださいました。これによって、いつだれが植林を行ったかが、一目瞭然となりました。



mjet

# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 2020年計画打ち合わせ調査

2020年2月29日から3月9日まで、計画打ち合わせミッションを派遣し、2日から4日まではバガンで植林の生育状況と2020年度植林の計画にかかる調査を行った

### 1. 植林の生育状況

**タンシンチェ村**は、パゴダ脇の植林地を除き順調な生育で、校庭の福永記念樹、熊谷記念樹も順調である。



小学校の校庭の森



旧小学校の校庭付近の森

**イーストパッソウ村**は、昨年村人がチークを捕植した場所で野焼きによるダメージが見られた。村長から再度、村の責任で植林したいとの意向が示された、小学校のタマールやチークは順調である。藤村の森のユーカリのシロアリの被害は徐々に拡大している。



野火の被害にあった苗木と周りの植林地

**コンタンジー村**は、昨年の植林地の真ん中に水道が引かれ、水管理委員会が女性を雇い週3回の水遣りを行うシステムが運用されていた。2015年に村で補植した小学校の横と裏の植林は、順調に生育している。



2019年8月に植林した苗木 順調な小学校校庭の苗木

**チョウカン村**は、ようやく電気が引かれた。溜池横の植林地は手前側の生育状況が良く川に近くなるほど成育が悪い。小学校横のチークを主体とする植林は林状に



生育が良いチークの苗木 優劣が明確な苗木

成育している。村の溜池は昨年の大雨による洪水で導水路や余水吐が破壊される被害があった。

**インダイン村**の山口の森は入り口寄りの傾斜地は、林状に成育が進んでいるが、奥の丘状の部分はやや固結した土質のため補植に拘わらず活着していない。小学校横の道路に沿った植林は順調に生育している。



山口仁秋記念の森（タマール） 小学校横の森（ココ）

**ピヨウセーピン村**は昨年の植林時の村長が交代した。植林後の活着状況は芳しくなく、新たな水管理委員会により道路の付替えを含め再植林の準備中だった。



捕植された道路脇の苗木 整地進む2017年の植林地

**ウェストパッソウ村**は、時間の関係で、集会場の周辺のみ確認したが、旧集会場の周囲のタマールは順調に生育している。

### 2 ゴミ処理マネジメント

**タンシンチェ村**では3カ所のゴミ集積所を指定（村の入り口の橋の右側、溜池の登り口の左側、村の東側）しているが、村の入り口の集積所は昨年の洪水で埋まり、現在は焼却場として活用されている。

**コンタンジー村**は、独自のゴミゼロ運動により、集積所を整理した。小学校裏の事実上ゴミ捨て場になっていた場所のゴミは除かれ、きれいに整地されていた。

**チョウカン村**では、溜池の土手でゴミを焼却した跡が点々と見られた。**ピヨウセーピン村**は、小学校裏のゴミ捨て場は整理されていたが、今後の推移を見る必要がある。**インダイン村**では、集積場は1カ所に絞ったとのこと。焼却炉で落ち葉などを燃していた。

### 3 プラスチックキャンペーンとの協議

MJETより、バagan遺跡の美化運動に取り組んでいる地元NGO、「プラスチックキャンペーン」のティン・スエ氏村に対して、「インダインモデル」（5つの要素：美化委員会、ゴミ箱設置、中間処理焼却、環境教育、最終埋立地）を説明すると共に、ワークショップの結果、村人の美化運動の捉え方などの課題について説明。同氏から彼らの活動について説明を受けた。MJETから、2020年8月に互いの経験を村民に共有し理解を深めるための共同セミナー開催を提案した。（神田記）



mjet

# ミンガラバーMJet News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 黄金のトライアングル紀行

ミャンマー・タイ・ラオス3か国の国境が川で接する三角地帯は、「黄金の三角地帯」と呼ばれている。その山岳地帯は、ケシの花実を基に作られる麻薬「アヘン」の産地として、長年有名であった。いったい、どんなところだろうか、一度は行ってみたいと長年思っていたところ、この3月にその願いがかなえられた。



上の地図と写真でもわかるように、3か国の国境はメコン川とルア川が交わる地域で、その場所から数十キロの範囲にある山岳地帯で、ケシが栽培されているようだ。ミャンマーでは、2002年にケシ栽培が禁止され、茶やコーヒー等の代替作物の栽培が奨励してきた。JICAはこれに協力して、ソバの栽培に協力したが、船で日本に輸送する間に味が変質することから、販売が進まず、ソバ焼酎の生産に転換し、今ではスーパーや空港でも販売されるようになっている。しかしながら、他の換金作物の価格が低下したことから、2007年頃から、再びケシも生産してきたようである。

ケシは空からの調査でケシ畑が見つかりやすいため、これに代わって、今日では合成麻薬の生産が非常に多くなっているという。一つは高純度のもので、「クリスタル」、または「アイス」と呼ばれ、タイや中国に渡り、日本、韓国、オーストラリアなどに運ばれ高額で取引される。もう一つが地元で「ヤーバー」と呼ばれる低純度の覚醒剤の錠剤である。



(左)クリスタル (右)ヤーバー(出典:ウキペディア)

西部のラカイン州からバングラデッシュに運ばれる麻薬については、アラカン軍(AA)とアラカン・ロヒンギヤ救世軍(ARSA)が関わっていると言われている。

三角地帯のメコン河沿岸のミャンマー側には殆ど建物がないが、タイとラオス側には、ホテル等の建物が多く立っており、観光客でにぎわっている。



メコン河の船着き場 国境のコロナ検査の保健婦

地域の中心地のミャンマー側のTachileik(人口5万)町とタイ側のMae Sai(人口8万人)町が、20mほどの川(国境)を挟んで一体化している。(図青枠部分)



ミャンマー側国境の出入国管理事務所

国境をまたいで通勤する人達(このため出入国管理事務所発行の通行証を所持)が多くいるとのことで、住民にとっては、国境は単なる入り口、出口のような場所に見えるのだろう。言葉は、シャン州のシャン語はタイ語と共に多くの両町ともタイ語が使われ、お金はバーツが事実上共通通貨だった(ミャンマー側のタチレクではチャットも使えるが)。両町を比較すると(以下の写真参照)タイ側が品質、品数とも優れており経済力の違いが感じられた。(藤村記)



ミャンマー側国境付近の市場と商店街



Mae Sai の商店街と商品が溢れるお店